

解題・翻刻

## 高橋忠光の軍事郵便について

小田嶋恭二

### 1 高橋忠光の略歴

高橋忠光は、明治三八年（一九〇五）八月一日岩手県和賀郡岩崎村煤孫（現在の北上市和賀町煤孫）に農家の七人兄弟の末子として生まれた。兄弟は兄二人、姉四人の計七人であった。父は葺き大工、長兄は北海道に出稼ぎに行ったり地元でいくつもの役職を抱えたりし、家をあけることが多かった。忠光は、煤孫高等小学校で優秀な成績だったため師範学校への進学を勧められたが、家の働き手がなくなるからと父に反対され、卒業後農業を手伝うことになる。馬三頭を飼うほどの農家であった。忠光は農業に対して新しい技術を取り入れたり工夫をし、米や野菜、馬などの品評会においても、いつも入賞するほどであった。

家族は、父、母、兄、兄嫁とその子供三人の八人家族であり、忠光は重要な働き手であった。二〇歳で徴兵検査を受け、甲種合格となり、現役兵として教育（弘前歩兵三一聯隊か）を受ける。

昭和三年（一九二八）高橋峯次郎の娘リキと縁組し、高橋家に婿入りする。峯次郎が藤根村在郷軍人会長の頃、忠光の長兄も岩崎村在郷軍人会長をしており交流があった縁でリキと結婚したという。義父である峯次郎が教員で多忙であったので、家督として農業を引き継ぐことになる。

結婚後の忠光の兵役は、昭和六年七月から演習召集で弘前歩兵三一聯隊の看護兵として行った時と、昭和一二年八月から召集され弘前陸軍病院へ配属となり中支へ出征した時の二回である。何れも弘前歩兵第三一聯隊の衛生兵であった。忠光が出征する昭和一二年にはすでに三二歳となっており、軍人としては老兵の域であった。また義父母、妻子、義祖

母を残し、一家の働き手の出征であった。

昭和一二年八月二八日弘前を出発し、宇品港から上海の日本商業学校で病院開設、入院患者の看護、死体の処置、日誌の整理、患者名簿記載、郵便物整理などの業務であった。

昭和一三年一月二六日弘前に帰還し、翌昭和一四年一月三一日弘前陸軍病院兵舎で除隊となる。以後、農業をしながら藤根村議会議員、和賀町議会議員、和賀町監査委員、和賀町農協理事、和賀川土地改良区理事などを歴任する。

### 2 高橋忠光の軍事郵便

今回翻刻した忠光の軍事郵便は全部で四一通（うち本文なし二通含む）。これを編年で整理したのが別紙一覧表である。編年に当たっては、日付と消印に依ったが、ない場合は内容や高橋峯次郎日記から推定した。発進時の所属は郵便に記載されているとおりである。形式ははがきと封書に分類し、軍事郵便には◎を付した。内容欄には、参考のため適宜要約と抜粋文言を記した。なお、同郷の出征兵士の名前については『真友』を参考にした。

軍事郵便の大半が、昭和一二年八月から昭和一四年一月までの召集から上海へ出征した時のものであり、封書が圧倒的に多い。そして恩師と教え子の関係ではなく、義父である峯次郎（家族）へ出した手紙である。忠光は、第一線で戦って負傷して送られてくる病人の看護に係わる仕事に従事し、衛生兵という立場で病人、支那兵、戦地の様子を見ている。忠光は、また上海に向かう汽車や船の中で見た様子や感じたことを克明に記している。また家族へ出す手紙とあってか、自分のいない田んぼでは農作業が上手くいっているだろうか、家族はみな元気に働いているだろうかと記し、手紙のひとつひとつから家族と故郷を案じていた気持ちが見とれる。中国の上海で兵役を務めながら、「土に生きること

が人間生活で一番強いことだと戦地に来てしみじみ感じる」と書き、人一倍農業に対する思い入れがあったことがうかがわれる。

忠光は上海に行く前は、後方において国家に尽くす功の少ないことを不満に感じていたが、戦地で実際に患者に接しているうちに衛生兵の任務の重大さを痛感したと心境の変化を記している。また戦争について、国のためであるが、一方ではその勝敗が人民一人一人に大きな影響を及ぼしていること、第一線の兵士の足を縄で縛って並ばせ、絶対に退かせないで頑強に抵抗させている支那兵の悲惨な状況に同情を寄せている。

同様に戦争と無関係な女子供が戦争の犠牲になっっている姿を目の当たりにし、「私は広野に呆然と佇む支那民の様子を見る時、我母程の老人、我が子程の少年少女が、一家の中心たる壮年男子を失ひ、壊れた家で暮らしている様を見ると、自分達はどんな苦勞しても必ず負けてはならない」と気持ちを奮い立たせている。

### 3 翻刻 41通の軍事郵便

#### 1【書簡—平信】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋峯次郎様

#### 【封筒裏】

弘前歩兵第三十一聯隊

第三中隊ノ五 高橋忠光

#### 【本文】

御手紙ありがたく拝見仕りました。

御文意によれば本年の稲の作柄不良の上病虫害の

様子見ゆる由誠に痛心の至りであります。私出立<sup>(当時)</sup>当事も

虫に侵されたるもの処々に見え何んとなく思はしからざる気が

いたして居りました。それが現実となって来た上は私もあと四五日後に帰りますが、何卒応急処置をお願い申し上げます。

次に私事予備召集の上は現役は短期日であった為、看護卒として余りにも学術的にも技術的にも貧弱を

極める自分として、是非不備を補ひ力を増し度決心でありましたが、事志と違ひ此の度の召集は甚だ不合理にはあらざるやを感じ居ります。くはしくは帰郷後申し上ぐべき

も、私達は七時隊より病院に向ひ、八時より学科、昼一時間休み四時終了帰營の途に着き、其の他は営内にて自由であります。

此の学科の時間も多くは復習にて、教官にしても助教にしても只形式か或は放置して居るので雑談に日を暮して居ります。考えて見るとあますもつたないと思はれます。

いよ／＼八日午前八時営門を出る事になりました。旅費は全部にて十二円二銭なそうです。藤根着は多分最終列車かと思ひます。

尚、御土産物として名産林檎をと思ひましたが不味にて

当<sup>(到底)</sup>抵食ふ事が出来ませぬ

八月五日 高橋忠光

高橋峯次郎様

#### 2【書簡】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋峯次郎様

#### 【封筒裏】

八戸より

高橋忠光

【本文】

うっとうしい気分も乗車するに及び清々  
しました。列車は召集兵にて満員、多くは  
衛生兵歩兵等です。元弘病にて同年  
兵の更木長田殿も同車しました。  
尚岩崎高谷君の友人藤根に代教を  
した紺野一夫氏も同車です。知人も多  
数あるらしいが未だ分りません。青森に  
入ってからは花巻最も盛んで国防婦人会等  
見送りは花巻最も盛んで国防婦人会等  
見事でありました。

八戸車中にて

忠光

父上様

3 【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次郎様

【封書裏】

弘前陸軍病院

気付イ

高橋忠光

【本文】

無事検査に合格しましたから御安心下さい。  
表記の通りにて手紙が来ます。  
お変わりありませんか、ふさはどうです。

御心配には及びません。

私等と同等の和賀組は同じです。  
皆様に表記の通りにて手紙が来ること  
をお知らせ下さい。

忠光

父母様

4 【書簡】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯次郎様

【封書裏】

弘病イ

高橋忠光

【本文】

益々健康にてのんびりと暮して居ります。  
いろ／＼心配して居たことも無事に通過してやう／＼  
一人前の御報公(奉念)が出来ると思ふとうれしく  
てなりません。知人も多数あります。  
普沼誠君、伊藤清正君等とは二十一日に、高橋角  
玄君とは昨日面会しました。何れも元気で居ります。  
其の後郷里に変わったことありませんか。  
何れ私達が働きに出るのも近日中だと思ひます。  
皆様私のことは決して心配いりません。  
高藤さんとは営は別ですが、時々会ふこともありまし  
亦出る時供をするだろうと思ひます。乱筆御判読願ひます。

忠光

父上様

5 【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次郎様

【封書裏】

弘前陸軍病院

イ部隊

高橋忠光

【本文】

御手紙拝見しました。多数の人達さぞお驚きのことと思ひます。村治上にも大変動あることとて何分の御努力も願ひしますが御自愛切にお願ひします。

私のことはお知らせしたいことは山々であります。軍規したがひます。現在の今法の制裁をうくるが如きは大名譽と思ひます。

(徳兵工君や徳孝さんが着き次第なれば面会出来ると思ひますが、今日なれば時間が無いかも知れません) 高藤さんの奥さんが面会に来てても今朝は時間が

無かつたと思ひますが、郷里で会つたかも知りません。何れ私は外の方に付きましたので特技を發揮して本分をつくし得る自身(自信)があります。

尚私の身は藤根の仁兵工殿に行けば分ると思ひます。

此の上は書けません、同じ働くにも私は何故前に出て行く人と(二緒)一所にならなかつたかとくやまれてなり

ません。同じ年の人達が私を越して行くではないかと思ふと残念です。

友次郎から便りありませんか。

明後日あたり穂の出揃ふた田を見ることが出来るこ

と思ひますが、うちの方も見事に穂がそろへたと思ひます。

皆様御きげんよう。

八月二十六日午後一時

6 【はがき】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

秋田県

高橋忠光

【はがき裏】

私は、今列車にゆられ乍ら此の葉書を書いて居ります。

秋田平野は見事に稲穂をそろへ天気はよく各駅大歓呼の中に南進して居ります。はるかに奥羽山脈を越へて思ひは故山をは

せ乍も勇躍前進して居ります。出発に当り弘前、秋田、酒田等で面会の機会あることを知り乍らも、其の後の大活動を想

ひ差し控へました。高孝さんは二十七日先発せるも其の部隊はまだです。今後多数の場合は、だれか一人位付そひ来て見る方も一案かと思

ひます。中笹間のいん居高橋弥太郎君には一(昨日カ)□□あひました。

弘前は涼しかったが、だん／＼暖かくなつて来ました。

私達は何処へ行くのか絶対知りません。

返事は当分だめです。何れ落着いてからお知らせします。

皆様お大事に。

7 【書簡】 昭和12年8月31日

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封書裏】

於広島市

高橋忠光

九月一日

【本文】

今日は三十一日いよいよ明日の応召者の為に働きつかれて居らる頃と遠察致し居ります。当地に来てから昨夜一泊して今日は休養して居ります。宿営した所は鉄道官吏の家にて種々歓待され恐縮して居ります。主人は近衛首相に似た背の高い立派な人で姉娘は海軍大尉の妻で出征中実

家に帰へつて居ります。同宿者は三人、八重畑の小学校の先生と江刺の稲瀬の人です。うちの方は大抵穂も出揃ふて今年の作も見えたと思ひますが、多分所々白穂もあると思ひます。田の落水は二百十日より一週間位たつてからの方がよいと思ひます。曆も見ないから二百十日も分らないが、多分九月一日と思ひます。農家の一番大切な日私等も波風静かなれと祈つて居ります。福井あたりでは所々稲刈りもありましたし、稲穂のまだ出ない所もありました。穂も刈取る時期でせうし、農繁期も近づいたし、皆様御苦労と存じます。苗代の畔の稗は私抜かないで来ました。是非抜き取る様に、水ははらつて落水を早くする様に、亦畑の中に石灰ちっ素をねせて居たから白菜に追肥する様に申付け下さい。

尚私等とく旅行して見て一番感ずることは、郷土の女の

教育の余りに低いことです。も少し底から生活を基礎とし

て教養を高めたいと思ひます。其の服装、態度、家事に対す

る知的能力(調理、家庭経財)等一々私共を感心せしむるばかり

です。尚郷土の方には饒別札状がとどかないの、或は記名発表

をしなければ寄付しないなど言ふ人許りですが、私達と二所に列

車に乗せて見たかった。私利なく私欲なく、私達を熱誠其のもの

で送つて呉れる人達、二時三時の深夜にしかも毎日毎晩の様にどの

どんな小駅でも湯茶を湧して列車を待つ人達、どんなお婆さ

んでも出征兵士の歌や戦友位は知つて居て激励する等実に感

心させられました。しかもそれは秋田市以南山形県の一部をのぞいて

全国的で、服装もうちの方の人達の様にござつたものではない

く、軽い単衣に純白のエプロン、夏の簡単服等到處(至る)に

会も山村も同じであり、文化のいかに全国的であるかを知ると共

に郷土のいかに現実におかれて居るかを感じないで居られません。

私達の部隊の組織編成は書くことは出来ませんし、予定等

も一切不明であり厳に禁ぜられて居ります。書いても家まで行かな

いのです。尚時計は時々止まつて困ります。亦大抵腕時計です。しかし

記念として大切に持つて行きます。現金は俸給、旅費等をもつたので

四拾円ばかりありますから送らうと思ひましたが、私達は六割増俸

しかもらへない(後に居る為)し、決して無駄使ひしないつもりで持つ

て行きます。子供等に何か買つて送らうと思つたが手数だし、明日の日

も時間もなし出来ません。只よく勉強する様に聞かせて下さい。

当地は相当あつく一同困つて居りますが、幸に私は堪へられます。

夏の弱い私は、入隊後非常に健康になり体重も一貫以上ふへたし

もう大丈夫です。

昨夜書いて居る時使役として働きに出ました。十二時過ぎ

まで働いたので今日更<sup>(改)</sup>めて書きます。もう当地からは最後と思ひます。これから一時間も休んで行きます。

尚私達は行先は知らないが、或ひは友次郎を見ることが出るかも知れません。昨日は大雷雨でしたが、今日はからりと晴れて上天気です。御安心下さい。

尚落付き次第お手紙を上げます。

忠光

御両親様

8 【書簡】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海派遣軍

第十号兵站病院

高橋忠光

【本文】

宇品出港後海上何等異状なく、長江下流の草地に就いたのは四日朝でありました。後で分かったのですが友次郎等の艦に守られて居るのでした。其後都合の為

少し上流の草地に到りました。揚子江と言へば河

であります。どこが河やら海やら見分けがつかぬ程広いのです。只、水は濁つてまるで鉍毒水の様です。此の深

さも広さも分からぬ。何か一面支那の国状を現して居る様です。現在は我空軍に戻せられたのか敵機も見えず何等危険を感じません。遠く上海の空には我機の爆

撃状況が手に取る様に見えます。夜は火災で空が

赤く見えます。砲火機銃の火も見えます。時々敵機が来るのか探照燈を照らして高射砲をうつのが花火の様に見えます。戦地に居る気がしません。まるでお祭りでも見る様です。今日も友次郎のふねが目の前を通つて行きます。多分私<sup>(と)</sup>の居るのは知らないでせう。

盛岡から来た照井といふ私の同年兵が盲腸の為今日かへされました。まだ御奉公も始めないのに。

私は何等変りありません。

それからしいたけの木

には水を切角<sup>(折角)</sup>やる必要があります。

いよ／＼今朝陸に第一歩を踏むことになりました。私達の働くのもこれからです。

来て見るとこんなものかと思はれます。御安心下さい。

忠光

皆様

9 【書簡】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海派遣軍

第十号兵站病院

高橋忠光

【本文】

本日無事目適地<sup>(的)</sup>に上ることが出来ました。

途中の海上は至極平穩にて無事でありました。

友次郎の方もよべばこたへんばかりのところに見ました。向ふは知らないでせう。

天気は毎日好く内地の気候と大差ありません。来て見るとこんなものかと思ひます。

情報は何等分かりません。新聞無く手紙無く内地の方が私達の百倍も御承知であらうと思ひます。

表記の通りで手紙が来ると思ひます。

友次郎にもお知らせ願ひます。

皆様御大切に。

忠光

皆様

10【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海日本商業学校内

伊佐部隊

高橋忠光

【本文】

亦々宛名が変わりましたのでお知らせします。

現在の場所は、日本人商業学校で四階の堂々たるこんくりーと建であります。設備、場所共申分なく私達の来た頃は戦線も

直ぐ近所で弾丸も飛んで来ました。爆撃の音、砲音も耳元で地ゆるぎする程でした。夜は敵機が来て高射

砲、機銃等の弾丸飛び交ふ様は壯観でした。初の弾は身ぶるいする様でしたが、なれると雷の鳴るよりは

恐くないとみんな申して居ります。火事はどこを見ても盛んですけれども、日本家屋とちがってべら／＼焼けはし

ません。日本でも万一を考えて大都市許りも建築物を必ず改造する必要があると思ひます。英米仏等の建物は

人が居るらしく燈火が見えますが、其の他は全く無人にて荒れ果てた市街は大きいだけに物すごい許りです。

直ぐ近所は工部局警察で印度人が警官として我等に敬礼する様も見られます。尚敵死体等を見るに大抵

十八九の若者で、中には女等も混って居り多分学生が主だと言ひます。其等は非常に抵抗力強く敵乍らあつぱれとい

ひます。当所は日々危険性は少くなりそうです。郷里の方の状況はどうですか。郷軍の状況は何卒お知らせ願ひます。郊外の田畑には、きびや稲が主も無い

のによく稔って居ります。そろ／＼忙しくなつたと思ひます。皆様元気にお暮し下さい。私等もこれからうんと働かな

ければならないと思ひます。

忠光

御両親様

11【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

宇後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海派遣軍

伊佐部隊（兵）

高橋忠光

【本文】

幾回となく手紙を出したけれど着いたか着かないかも分かりません。

都合により前日に予想して出しても変更になったり、一通の手紙に一週間もかかって書いたりしますので重複しているかも知れませんが、少しの暇に書きます。乗船してより三昼夜海を越えて目的地に近づきました。江上に八日も暮らして上海に上陸しました。上陸前夜の如きは船に敵機来り、我軍艦の高射砲や高射機銃の音、照明燈や探照燈の光、敵の陸上隊の機銃の弾の船に当る音等壮烈な攻防戦が展開されました。途中呉淞の戦場の我軍苦戦の跡（上陸に）、敵の死体の数知れぬ腐敗の臭、砲台を破壊せる跡、我戦病（コレラ）死者の焼く煙等を

思ひ合せて戦場意識を呼び覚ませられました。幸何等の損害もなく十二日無事上陸して当地に來り、以来日々の

任務に追はれ乍も益々元氣にて隔日殊（或は連夜）に敵

の飛行機の夜襲も高射砲機銃の音も知らずに眠るだけの度

胸が出来ました。我等は弾よりも悪疫が恐ろしい。中でもコレラは

非常に多く困るが、幸当病院は他に転送するので尚私は丈

夫です。御心配いりません。私は現在患者に接するよりも病

症日誌、処方等の助手として八重畑の先生菊池弟六さんと

共に筆で仕事し居ります。何分一日何百名の出入の為事務繁

雑して軍医も手当よりもこの方に困る有様です。近頃は余

程なれて仕事もやり易くなりました。患者は名譽の戦傷と言ひ

乍ら戦地のことなれば、実に氣の毒で内地にあれば一人にも何人もの付

添ひして大変であるのにじつと我慢して私達にすがるので見ると、

人一倍感受性の強い私は涙を流さぬ日はありません。私は来る

時は後方に居て国家に尽す功の少ないのを不満に感じて来

ましたが、来て見て患者の有様を見る時私達の任務の重大さ

に尽す機會の何等不足のなさを痛感して居ります。

内地は相当冷しくなつたと思ひますが、こちらはまだ夏の気分

が抜けません。目の下に見ゆる畑には豆きび等、田には稲が見事

に稔つて刈る主も無く一人戦場の悲哀をそへて居ります。

この手紙の届く頃には稲も刈る頃となると思ひ居ります。

尚郷土の郷軍の人々はどうかどうなつたでせうか。喜右工門が召

集されませんか。患者としては谷内の人一人がここに居ま

すが殆どよくなりました。再び戦線に立つのも近い中でせう。

私達は皇軍の必勝を信ずる故に何等の不安も無く此処

に勤務するのも平時の感じですが。うちの方の皆様も苦しいでせ

うが支那の国民は家も地もなく、女子供も戦線に立つて生命

を失ふ者も多数あります。何卒あまり無理せずにお働き願

ひます。

忠光

御一同様

手紙の宛名は表記の通

12 【書簡「軍事郵便」】

岩手県和賀郡藤根村

宇後藤

高橋 峯次郎様

上海松井本部隊

伊佐部隊（兵）

高橋忠光

【封筒裏】

(白紙)

【本文】

其の後は皆様お変わりありませんか。

私も何変り無く微力を国家に捧げつゝ、あります。御安

心願ひます。上陸度々お手紙を上げたつもりではありますが

届かなかったかも知れませんが、敵機の空襲と機銃の乱射

を浴びながら上陸前の一夜を明かして、翌日は敵弾雨下り

に救護を始めてより半月勇敵無比の我軍の前にもさし

もの敵も遂に退陣を余儀なくせられ戦線も斬次遠

ざかり、最早や遠雷を聞くの程度であります。多少悪疫

ありますがもとより私共は覚悟せること故恐るゝに

足らざる故御安心願ひます。神仏の加護を信じて一

意患者に尽す考へで、現在我々衛生部員には一名の患者も

無く大奮闘して居ます。

敵機数日前、夜私共の見て居る所で我砲に射落され

てからは来襲も少なくなりました。

内地はこちらより多分涼しくなつたと思ひますし、或ひは稲

刈りもして居ると思ひますが、私共は多忙のため思ひ出す暇も

なく手紙書くさへやつとであります。こちらはまだ八十度を

上下する気温ですが、一ヶ月とた、ない中にずっと涼しく

なつて悪疫も退散すると思ひます。

こちらの農作物は、刈取るものもなくよい稔を見せて居ます。

うちの方はどうですか。多数の有力な中堅層を送つた地方

は多忙を極めて居るでせう。村の在郷軍人の消息が知り

たいものです。当地の物価の高さは驚く許りです。

万年筆一本拾圓以上、電燈(自転車用)一個一円  
八十銭と云ふあり様です。

しかし、私は酒も煙草もいらぬし、自然金銭もつと持っておか

ないのです。私の上に居て私を使ふ役の菊池弟

六さん(八重畑の先生)が分遣にやられ元外科の事務

をやつた者は、私のみとなりました。一回二三百人の出

入の為非常に多忙ですが、だんだんなれたらやり

よく外に二名の応援を得て自分の責任を果した

いと思つて居ります。日誌、処方、名簿、伝票等

です。自分の一番近い人は江

釣子の高橋長吉さんです。

皆様何事もあせらず時節柄何卒御身大切に

願ひます。私の事は決して御心配無くお働き願

ひます。

尚友次郎の方はどうなつて居ますか、お知らせ

願ひます。

忠光

御両親様

九月二十八日の夜

13 【書簡一軍事便】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎 様

上海派遣松井本部隊

伊佐部隊(氣付) 柏隊(兵)

高橋忠光

【封筒裏】

(白紙)

【本文】

御手紙拝見しました。御一同様無事でお働きとのこと安心しました。馬のことについてお報らせされたようですが、私は始めて聞きました。昨日、手紙は戦地にて受取った第一報であります。

和賀新聞なつかしく拝見しました。使ひ馴らした

母馬が御奉公に出たとあれば、いよ／＼農事もお困り

と思ひます。此の非常時のこと故、それに対応方法により皆

様もお暮(暮らし)の程願ひ上げます。うちの馬は二三日前私共

の目の前を通つて行った中にあることは、思ひ合せること

しかと思ひます。友次郎と云ひ馬と言ひ私共はつながる

縁で前後して御奉公して居ることを思へば感慨無量で

あります。尚新聞は、上海日報が(二ツ切ノ半面)時々見るが、あ

とは一月位前の許です。患者慰問として雑誌(古)が沢山

ありますが、見てゐる暇がありません。

我々九月十五日病院開設以来患者来て二三日の中には

満員を呈する有様で、何せ上陸直後衛生機関の無かつた為

手当不十分で傷者は見るに堪えぬ有様でした。当病院

も設備器具等不完備の上、実地の経験なき人許りで困り

ましたが、日々馴れて今ではや、完備して手当も充分出来る様

になりました。一行も分かれて今では当病院に残るは兵二十名

となり、あとは近いが別の所に開設して居ります。江釣子

の高橋長吉さんも、更木の平野君も分れて、私の近い人で

は台温泉の染屋の中島愛次郎伍長のみであります。

日赤看護婦百人以上も来り、実際看護は其の人々許りと

なり、私は事務専門となつて居りますが、夜は私共がやりま

す。食事は内地の兵食と大差無く私達は最も恵まれ

居ります。慰問品の如きは極くまれで、我々兵員には当りません。

外出と云ふても入浴の時位のもので出る事はありませんし、出ても

何等面白くもありません。先日患者輸送として埠頭に

出ました時、警備艦の兵が河向ひから射撃せられて三四名倒

れましたのを見ました。其の時我軍艦が盛んに砲撃して居

りましたが、何せ建物の陰から射つのはつきり見えならしく

我飛行機もすぐ来て爆弾投下をやりました。友次郎

等はつとはなれて居ります(江口)。敵機の夜襲も相変

らずで、二日前夜の如きは上陸直後の兵二十名許りやられました。

其の他は大した事も出来ませんが、燈火管制だけは嚴重

にやらねばなりません。でも傷者の手当の為手提げ電燈

をほしいが、あつても全部不完全の為皆大弱りです。

もし何か慰問とか献納(した)しい人があつたら、当病院(柏隊)

にも電燈を幾らでもよいからお願ひの旨お伝へ願ひます。

戦況は、今は何も申し上げられませんが、銃砲声のまだ／＼

聞えるは万事お察し願ひます。進んでゐることは進ん

でゐます。患者の多くは外科で内科は割合にありません。

一週間許り前迄は、コレラ菌は大抵の患者にあつて、保菌者として

隔離するにも手の下し様がない程でしたが、割合に症状を現せる

者が少く冷(涼)しくなるにつれて保菌者は少なくなりました。保菌者は

内地還送することが出来ないのです、新患者の収容が出来ず困りま

す。赤痢もぼつ／＼ありますが、思つた様にありません。どんな

悪疫も注意さへ怠らなければなんともあります。

以上、申上げた次第で私には何の御安心を戴く程のことはあ

りませんから、皆様無理せずにお働き願ひます。

忠光

御両親様

私度々手紙出しましたが着いていない様です。此の手紙がとゞいたら御返事願ひます。

14 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 すすゑ様

上海

高橋忠光

【封筒裏】

(白紙)

【本文】

永い間御無沙汰しました。皆様お変わりありませんか。

私もお陰様にて無事毎日勤務致し居ります。御安心下さい。

郷里の方は、寒さも相当加り霜とけ道で困って居る時分

と思ひます。こちらはまだ暖かで丁度二百十日過ぎ位の気

候で、朝夕少し寒さを覚える位のものです。

留守中は色々皆様に御苦労を掛けて居ると思ひます。

今後共よろしく願ひします。さて、こちらの様子について

お知らせしてやりたいこともあります。何分多忙の為に書く

暇もない有様です。私達の仕事は衛生兵としての仕事

は、日赤の看護婦多数来援の為<sup>(主)</sup>に事務の方に許り

働いて居ます。患者の多くは、戦傷にて一時は恐るべきコレラ

患者も相当あり、赤痢等充分注意の結果我部隊には一

名の犠牲者もなく気候の冷<sup>(涼)</sup>しくなるにつれて、疫病も自然

少くなりました。御安心下さい。我々は兵站病院のことなれば

ずっと後方勤務のこと故前線のこと、傷者の語で知るのみで

ありますが、毎夜飛行機が来り爆弾を落として行きます。

十月十四日の夜などは当病院より二三十間のところに

三ヶの爆弾を落しました。丁度私の不寝番の時でしたが翌

朝見ると、患者便所はちの巢の様穴があいて居ました。

看護婦の如きも始の中は怖がつて居ましたが、今では敵機が来

ないと淋しいなど、力んでゐます。まして私等は耳元で弾の

音や爆弾の音も知らずに眠つてゐます。第一戦の人達に

くらべると内地に居るも同じです。私のことは心配していた

ゞくのは勿体ない位です。皆様御体を大切に願ひます。

15 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海派遣松井本部隊

伊佐部隊柏隊兵

高橋忠光

【本文】

其の後手紙も差上げず誠に申訳ありません。先日菊池一君より<sup>(葉書)</sup>端書、た

みのお父さんから手紙、東京の甥正六から胴巻と小国旗の小包を戴きま

し

た。早速返事は差上げた筈ですけれどお会ひの節はよろしく願ひしま

す。

扱当地にありますれば申上げ度事、お知らせし度事山程、何より申し上

げてよいか分りません。私共二百名の部隊は、分院亦分院で現在当商業

校に残った兵員は二十名許りになりました。私は初から外科事務室から動きません。当隊は現在七百名位の患者が居り、部隊総收容人員七千許りです。尚收容し切れないので盛んにばらつくを建設してゐます。

戦線の方は私共には分かりませんし、内地にゐて新聞を見る方が早分りと思ひますが、去る十月式拾七日上海第一の要塞大場鎮陥落以来進展してゐるらしい。敵を圧迫しつゝ、外国租界を軸にして、上海を廻転の形成(形勢)といひます。(友次郎が持ち返つた上海地図を御覧下さい)浦東に押しつめられた敵は、時々砲弾を送るので彼我の砲声が轟き戦地気分もしますが幾日も経たずに安全地帯となると思ひます。最も恐れた伝染病も次第に冷気に戻されて今は赤痢患者三四名許り居ります。コレラは一時八九割の菌保有者があり、症状もほつほつ現れて恐れましたが最近殆どありません。同僚への手紙によれば、新聞にて伊佐部隊として戦死報告、戦傷報告の多いのに驚いてゐるらしいが、本科の伊佐部隊は第一戦に居り兵站病院は何等損害なく、時々爆弾砲弾の落下にも幸軽傷者二三名出したのみです。(当部隊にはありません)気候はずい分暖かく、旧八月十五日から九月初めあたりの気候で雨も降りますが長くは続きません。付近の畑地や田は作物を刈る人も無く高菜や大豆其の他の作物もみんな立枯れです。野菜などは食ひ度くも其の辺にはありません。第一線に比して給与も食物も全く恵まれて何の不足もありませんから、御心配下さらない様に願ひます。

何か送る様にははれませんが、こちらからは品物は送れませんし第一私は外を出歩く暇がありません。私と一(二)所に勤務してゐるのは宮古の支庁財務科(課)に居る出納主任川戸甚四郎さんで私も大助かりです。

尚患者より聞いた話を少し申し上げます。支那兵は地理に明るいで夜襲をやる二十米位の処まで来て手榴弾を投げる。それが相当猛烈だ。近い所から射撃がうまい。けれど白兵戦はやらない。女子供も戦線に参加して弾運びをやつてゐる。場所によっては第一戦の兵士を太い縄に足を縛

つて並ばせ絶対に退かせない。相当の新兵器があつて頑強に抵抗する等ですが、さすがは皇軍傷(傷つ)いても、倒れても大軍を圧迫して行つた精神力には感謝しなくてはなりません。尚患者の中には心臓部に当つた弾が認識票に受けて一命が助かつた(私は実際見ました)人、菓子缶でよけた物等の奇蹟(奇跡)がいくつもあります。同封の紙は一年生の書いたものではあります。下顎を挫滅した患者が看護婦に筆談したのです。胃に腹から穴を(あけ)あり(管)ゴム管で食物を入れてゐます。(出征家族に話してはいけません)

最近の召集はどうなつて居りますか。真友同じ物二部来ました。菊池一君の手紙には、万太郎さんが召集になつた様になりましたが。例によつて父上様は村のことではかけ廻つてゐると思ひますが、あまりつかれぬ様願ひます。母上様も寒くなります。風(風邪)をひかない様願ひます。友次郎からは手紙が参りました。はるか弘前陸軍病院を廻つて来ました。

此の手紙がとゞいたら御返事願ひます。  
(十一月五日夜書)皆様益々しつかりして支那を徹底的にやつつけるまで頑張つて下さい。戦争の惨禍も犠牲も東洋平和の為です。第一線に立つより後方を守る人も辛いと思ひます。御国の為にお願ひします。

忠光より

御両親様

16 【はがきー軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯 次郎 様

上海派遣松井本部隊気付

伊佐部隊、柏隊（兵）

高橋忠光

【はがき裏】

御送付新聞有難く受取りました。

御変りありませんか

四五日前手紙は出してありますが変りありません。

甚だ勝手がましいことですが、新聞をお送り下

さいます時は岩手日報、和賀新聞等お送り

下さい。中央の新聞は、患者に來るのを見られま

す。友次郎から無事の端書（葉書）きが來ました。

17【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯 次 郎 様

上海派遣軍松井本部隊氣付

伊佐信部隊柏隊

高橋忠光

【封筒裏】

（白紙）

【本文】

お送り下されし林檎有難く受取りました。

当地は、果実等は少なく高価にして手に入り難く全く珍

らしく、波頭数百里懐しの故国にて心をこめしお贈り

物実に感謝に堪えませぬ。只惜しい事には箱が破れ

栗が僅か残り、林檎が振動の為栗に潰されて居りました。

真友もつききました。同時に甥重太郎からも手紙が届きま

した（七月二十一日出し）。煤孫にては出征後の家には皆手伝して何処よりも仕事が進むとありました。我部落はどうかと思ひます。後の三藏殿も軽快の様子安心しました。

其の後手紙も届いたかも知れませんが、戦況の展開して

友軍の前進せし為、銃砲声も殆ど聞く事なく

実に淋しい位です。但し我々の任務は益々重く日

夜大奮闘して居ります。世界戦史未曾有の大激戦

の陰には亦我々の奮闘が必要に迫られ、驚異的機能を

發揮せる物として東北健児の面目を躍除（如）たらひめて居ります。

畏くも二十八日当部隊に侍従武官御差遣あらせられ、優

渥なる御聖旨を奉戴するの光榮に接したることは

無（比）ヒの光榮として、皆様にも喜んで戴きたいと思ひます。

只残念なることには、自分としては勤務の都合上光

榮伝達式に参列する機会を恵まれなかつたことを殘

念に思ひました。然し乍ら一日とても停止をゆるされぬ事

務の為、戦友に代表を頼んだ次第です。夜二時三時迄

の激務により戦友もつかれの為休んでゐる有様なれど、幸

私は益々健康にて見違へる程太り益々丸くなって居ます。

現在は夜勤も左程苦痛でなく、寒さも余り激しくありま

せん。戦友共は皆防寒シャツやチョッキを送ってもらつてゐ

ますが、私は其の必要ありません。尚出動兵には真綿のチヨ

ッキを着せて出す様におはからひ下さい。相当弾除けになります。

尚此の手紙を書いてゐる中に補助衛生兵一等兵の進級命令を

受けました。規定は最高限五割とのことなれど、我が部隊は

異状の活躍により一律に進級し、私も其の余榮を得ること

になりました。尚待望の首都南京も我軍の手中に入るも

遠からずといはれ、我々も前進して其の任務につくにあらざる

やと思はれます。勿論勇躍して其の期を待つて居ります。それからふさ子や千代子等に郷土出身兵へ慰問文を書かして下さい。品物よりもどれだけ慰問になるか知れません。亦勉強にもなります。私の方へも清書図画をお送り下さい。尚、当隊黒岩の人及川喜藏准尉が入院して居ります。内地還送としてありますが本人熱烈なる志望の為原隊に近く帰る様子です。内地は相当寒い時期です。皆様お身を大切にして下さい。

十二月一日

エハガキを送りましたが届いたでしょうか。

18【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次 郎 様

【封筒裏】

上海派遣軍 伊佐信部隊気付

柏隊 高橋忠光

【本文】

永い間手紙を出しませんので色々御心配をかけたこと、思ひます。仕事の方も忙しかったし、変りもなかったので御無沙汰した次第です。

昭和十二年も暮れになり、内地は相当寒いと聞いて居ります。こちらは雪は無く割合暖かであります。チョッキをお送り下さいましたさうですが、まだ届きません。先の林檎は半分以上は食へました。当病院は支給品食物等不自由ありません。御安心下さい。入浴も出来るし、田舎生活ですからほんとうに恵まれ過ぎて居ります。何か支那の物がほしいとのことですが、私は減多に出歩くことも出来ませんし、出ても大抵焼けて

しまい亦掠奪は固く禁じて居りますから何もありません。掛図は二三本ありますけれど送ることが出来ません。上海に居ても江湾鎮とか大場鎮とかの皇軍苦戦の跡さへ見る機会ありません。市政府は見ました。相当大きな支那風の建物で、これを中心に大きな都市計画中だったとかで、あたりには建物がなく一里以上市から離れた処にあります。これも戦の為に大破してゐます。上海は近頃静かになり、商店も開けて日本人町には覆をかけた電燈さへつく様になりました。私達も病舎に窓掛けをして電気を付け仕事もやりよくなりました。患者はずっと減って半分以下となり、分院一つを減らしました。患者は減っても事務は仲々減らないが、それでも余程楽になりました。南京からは舟又は汽車で患者が来ます。東ノ大町の源右工門君が上海に来て居るには驚きました。平柳部隊からは患者も沢山来たから、尋ねたら分かったかも知れない。こちらから分かり易いと思ひます。其の他の人達にも音信はしたいが暇が無い。然し上海戦に郷土部隊が来ないでよかった。二十七日某要人護衛の為当隊より三名選抜されて蘇州迄行きました。鉄兜銃剣を持って、身を固め弾を沢山持って敗残兵の居る所を自動車で夜通りました。幾分なりとも第一線の気分を味はった様な気分がします。

皇軍の進んだ跡に支那民衆が集まって、稲を刈ったり菜を摘んだり壊れた家を直したりして居る様子は、全く同情に余りあります。

戦の跡といふことがあります。実見すると何ともいえない気分です。屍体馬がころがり、自動車はひっくりかえり、家は焼くづれお話にならない。老人子供等許りの、しかも秋の取入れもしない。家もない。それでもあちこちで麦の手入れしたり、菜種の間引したりして居ます。

蘇州は支那でも古い都で、詩で有名な寒山寺のある所で町も

あまり壊れて居りませんでした。大きな城とクリーク竹藪、古い木等皆思ひ出の種であります。人口は三十五六万の町でみんな逃げたのが、現在は七八万帰って来て商売も始めて居ります。我々を

見ると手を上げて敬礼し、腕に日の丸をかけた腕章を付け、手に国旗を以つて迎えるのでした。我々は此の時程皇軍であるほこりを感じたことにはありません。(病院は働かないかも知れません)

友次郎の様子をお願ひします。

あけましておめでたうございます。

すぐ耳元でラヂヲの除夜の鐘を聞きつゝ書いて居ります。

二十八日分院に行つて居つた大阪□日赤の人達が帰つて来て私の太ったのを見て驚いて居ります。それ程元気で新年を迎えました。

御安心下さい。

はるかに皇国を拝して、国軍の隆昌と皆の御健康を祈ります。

尚年賀状は書き兼ねました。(葉書)端書まで買ひ乍ら

適当の期会(機会)に年賀状の費用手数を有意気(有意義)に使ひ度いと考へて

おります。其の節は父上様より此の旨よろしく願ひます。

ともかくつまらぬ体裁、虚礼は排して今こそ實際的に一致して

立たなければならぬ時です。父上様の三十余年の努力は、今ぞ輝いて

居ります。悪徳なる人間は、いつしか支那の如き制裁を受ける

時がありませう。迷はず尊き道を真直ぐにお進み願ひます。

御両親様

ふさ子へ

シ お手紙ありがたう。丈夫で勉強してゐるさうだが、ますく勉強するんだよ。支那の子供は、お父さんもお母さんも兵隊へつれて行かなくて、お祖父さんお祖母たちとゐるよ。食ひ物もなく困つてゐるよ。なまけたり勉強しなかつたりすると戦にまけて、支那の子供の様にはひどい目にあふよ。寒さにまけずに元気でゐなさい。チヨコへメ オテガミヲカイトヨコシタソウダガ、オトウサンノトコロヘトゞカデナイ。ソノウチニクルダロウ。マタカイトヨコセ。コトシカラガツタ コウヘイクノダカラ、オトナシク、ヨクネエサント仲ヨクシナサ

イ。

ウ シヤシンヲヤルカラ、二人デナカヨクミテクダサイ。

19 【書簡】

大日本帝国

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海派遣伊佐信部隊

柏隊

高橋忠光

一月十四日

【本文】

御送付のチョッキ、スルメ有り難く受け取りました(十三日朝)。

母上様の御心尽しと思ひ厚く御礼申上げます。

何分当地も一月になつてから寒くなりました。然し故郷

に比べるとずっと暖かであります。事務をとる時平服では窮

屈だし白衣と襦袢だけでは寒いしチョッキが来て大助かり

です。内地は大雪で寒さも烈しいと聞いて居ります。

皆様余り御無理をせずにお風邪を引かない様に願ひます。

私達も十一月下旬を峠として患者も減り(一時は一万以上)

仕事も楽になりました。給与もよくなり何不足なく内地

に居ると変りない様な気がします。当隊には静岡、三

重、大阪、山口等の日赤救護班が居り患者に

何不足なく手当をして居ります。患者が四分ノ一位に

なりましたので三重の班が他へ行きました。一ヶ月内外で私

達だけで勤務することになるかも知れません。

先日の手紙に、村民が事変が一段落の如き気分が見えると聞いて非常<sup>(非常に)</sup>残念と思ひます。上海南京間僅か七十里

位の所で我軍がとれだけ苦勞をしたか、近代戦とはいかなるものか、実戦に参加した者でなければ到底<sup>(分かる)</sup>別る筈がないと思ひます。漢口までは四百里、其奥地にて遠吠へする支那軍が目標です。もとより一死奉公の念に燃ゆる皇軍の必

勝が必然ではありますが、其の間いかなる苦難に会ふともひるむことなく、氣をゆるめず一日も早く彼等をして目を覚まさしめ

東洋平和の確立をのぞみます。戦はこれからとは一同の気分です。私は広野にほうぜんと佇む支那民の様を見る時、我母程の老人我子程の少年少女が一家の中心たる壮年男

子を見失ひ、家はこわれ、田畑は荒れた中にくらしてゐる様を見ると、戦は国の為であるが人民一人一人にこんなに勝敗がひ

いて来るから、自分達はどんな苦勞しても必ず敗けてはならないと思ひます。この民族精神を忘れて我財の増殖のみ計り、我地位のみに重きを置き同民族を苦しめる人間はほんとうに浅間しく憎むべき人と思ひます。

私達はそんなことにはかかはりなく、尊い民族精神に生きるべきと思ひます。何れ私達も近いうちに再び彈道下に勤務するかも知れません。今の処はつきり分りませんが

福島<sup>(の)</sup>娘、九州のみち子死亡には驚きました。

友次郎も満州方面に出たとしても見当がつきません。

近頃手紙も来ません。便りがあつたならお知らせ願ひます。

尚別封に依り村民へ歳末の贈り物をお願い致します。

忠光

御両親様

今年の百姓は大掛りしない様皆様御身体大切に

ふさ子へ

清書図画を見ました。よく書いてありますがもつと勉強して上手になりなさい。夢に学校の成績のこと見ることがあります。これからも時々送つて下さい。おちさんへもお送りしなさい。

チヨ子へ

コトシカラ、ガツコウヘハイルカラ、ゲンキデネイサ

ンニマケナイヤウニ、ベンケヨウシナサイ。

コレカラモテガミラクダサイ。

オチサンノホウデモ、マツテキルデセウ。

20【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峯次郎様

上海派遣軍松井本部隊

伊佐信部隊柏隊兵

高橋忠光

【封筒裏】

(白紙)

【本文】

別封小包の札状と近況報告は致しましたから

略しまして、上陸以来村民諸氏の熱意を謝すべ

く御札状、年賀状、寒中御見舞等を差上ぐ

べきのところ、何分戦地のこと、て意に任せず失礼し

て居りました。しかし乍ら、今はかゝる儀札の時にあらず

真に実の時であると思ひまして僅かの給料を節約

してお送り致します。国防献金にも思ひましたが余りに少額でありますから、事変の為活動すべき村の何かの事業の費用にお使ひ願ひます（二十円）。

私共今日迄比かく的安全地帯に居り前線の労苦

を思ふとき、じつとして給料を私用に使ふことが堪えられませぬ。前線に於て生命を投出して戦ふ

勇士の銃後を少しなりと慰めて上げたいと感じ

ます。決して売名の為にお送りするものではありません。

旧年末も近づいて、出動勇士の家族で非常に難儀

して居る人もあると思ひます。よろしく世話して上げて

下さい。掛声や見得では仕事は出来ませぬ。

軍人会名義で送らうと思ひましたがそれでは喧しいと

思ひまして父上様にお願ひします。

忠光

父上様

外に五円は福島と九州と後の三蔵様へ適当

に御見舞として上げて下さい。

村の人の中では菊池一君がよく手紙を呉れます。局の

高貞君、高喜君、長清水ノ千徳君位のもので

す。忠一さんからも年賀状

患者の金の無い人にちよいく／＼上げたりするので私は

金なんかあまり持つて居ませぬ。でも酒も煙草もいらぬし

金を使ふことがありませんから金に困ることは決してありま

せん。御心配いらぬ。

21【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋峯次郎様

【封筒裏】

上海派遣軍伊佐信部隊

柏隊

高橋忠光

【本文】

二月十四日差出の端書（乗書）二十三日着きました。金は野

戦郵便局にて送った筈ですけれども、後で聞いたら三ヶ

月位か、るかも知れぬとのこと、其の中に問合せて見ます。

二十五円で五円は後福島と九州へで二十円は何か村

の為に書いてやりましたが、まだとゞかないのにはがっかりしました。

真友はまだ来ませぬ。後のお父さんどんな具合でせう。

村はどんな事になってますか。短い間だけれど近所も相当

変わりあります様子、皆様もお体を大切に願います。

扱我々が弘前から親と仰いで来た伊佐大佐殿は朝鮮

に軍医部長に栄進され、新に深谷中佐殿を部隊

長として迎へ深谷部隊となりました。

いよ／＼長期戦として大本営陸軍部発表の通り

一部内地帰還せしめるとのこと、相当引揚げもあり

派遣もある様子、我部隊は上陸が早かったので三月初め

乗船ともつぱらのうはさでありましたがお喜び下さい。非

常に有能なる部隊として、再び御報公（奉公）の名譽を

荷（担）い中支戦線の救ひの親としての任務につくことに

なるらしい。元氣一ぱいで大奮闘をする気であります。

うちの方のことも其のつもりでお頼みます。二三日後には柏

隊を閉鎖して本部に集まる模様、私は多分本部

付となるでないかと思はれます。うちの仲間の本棚に私の字くづし辞典があった筈です。あれと夏物一二枚お願ひします。友次郎がまたこちらに上陸したといつて来ましたが、便り遅れて合ひかねました。だれかに頼んで知らしてもらえば私が飛んで行きますけれど、でも達者なさうです。尚後報あるまで返事はいま、でとうりの宛名で願ひます。

高橋忠光

御父上様

22 【書簡―軍事郵便―】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次 郎 様

北支派遣伊佐信部隊気付

柏隊

高橋忠光

【封筒裏】

(白紙)

【本文】

一月式拾七日友次郎当地領事館前に上陸せる由なるもついで時間無く面会の期なく、再び出港の旨通知ありました。折角面会を期待して居りましたのに実に残念でありました。でも元気であるとのこと故御安心願ひます。私も相変わらず元気で居ります。当隊も益々患者減り、現在は千名を下り日赤班もぼつ／＼引揚

げて居ります。私達は当地に勤務するも二月一ぱい位ではないかと思はれます。

然し除洲会戦も近いともいはれ再び働き甲斐のある勤務に服する日を腕を撫して待つて居ります。

当隊の患者は、戦傷者は殆んど入院無く外科、内科、同数位になりました。チフス患者が一番多く、先日も篤志看護一名遂に犠牲となりました。

然し私達は体力も強く常に戒心して服務しますから御心配無き様願ひます。

先日は三勇士に名高い廟行鎮を始め江湾鎮、大場鎮等友軍苦戦の跡を見廻りました。

お話しすべきことは沢山ありますが書き得ません。然しあの呉淞クリータ蘇洲河の濁れる水を見る度に人柱となりて沈みし幾多の皇軍勇士あるを思へば断腸の感あります。地図をひろげて見たならばお

分かりと思ひますが、当地より南京迄は直線にすれば二三里のものでありますが、仏租界を廻る為七里位あります。其の南京へも行きました。途中沢山の支那人が一々服装検査を受け、青菜を担いだ農民が大道市政府の役人らしい者に大道で税金をとられて居るのも珍しい光景でありました。近いに南京迄見学に行くらしい話もあります。

色々参考になることもあるので、写真機を買って写して行きたいと思ひますが、少し金が足りないから止めてもつと有効に費ふことを考へて居ります。

先日少々送つ金がついたでせうか。手紙も差上げた筈です。

23 【書簡―軍事郵便―】

大日本帝国

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

上海派遣軍伊佐信部隊気付

柏隊

高橋忠光

【本文】

昨年拾月式拾日日付の手紙が今到着しました。

同時、後の三蔵さんの手紙も来ました（一月十五日付）。

何分野戦郵便局には山の様な郵便物の為整理に困るらしい。私の分は順調に小包も来る。

郷里の皆様（乗書）に端書位は出したいとは思っては居るが。

尚先日金少々送ったのが届いたでせうか。

当隊には、日赤三個班大坂山口静岡（一個班医員一名班長婦長一名に二十名）勤務して居りますが、近々中に引揚げる話もある。私達の前進（比）は、それから分らない。

国際都市上海に半年の勤務も此の際最も繁華な佛租界等は見られない。

私は余り外出期もない。患者は減る一方で当隊には五百名許りしか居りません。

伝染病は割合に少く、チフスが一番で呼吸器病、赤痢等で五六名位であります。

近頃は雑誌を読む暇も出来ました。本も沢山あります。

砂上樓閣にも等しい。所有権は国家の貸し与へたものであり、国の為（勵み力）に□み国の為（勵み力）に費ふ精神を持たなくてはなら

ないとありましたが、非常に感心しました。敗賊国支那

の有様を見ると実に名言と思ひます。自己の□を最

上と考ふる支那国民のあやまった精神が、今度の事変

となり敗戦となり此の憂目を見たと思ふと、自業自得

とは申し乍ら哀れでもあります。

私は此の本を読み乍ら村の或る人に考えが及んだ時に痛切に感じました。あの人に人の人達を取り囲む人達に此の

覚悟があり、此の精神があつて、村を指導し村を治めて居る

だらうかと。然し砂上の樓閣は何時しかくづれると思ひます。

健全な村の掟は今の中にきづかれると思ひます。

私達は戦線に立つて居るのであるから、内地のことはかへるみるこ

となく、一意的達成に努むるのみであります。

北支南京上海等に輝く戦果を取めたりとは云へ、大陸の一角に足係りを作ったのみであります。彼等が真に抗日意

識をすて東亜安定の歴史的大業が完成する迄は、我々は

一歩も退かない覚悟です。彼等が長期抗戦を唱える以上十

年二十年の聖戦は覚悟の上です。此の歴史的大業に参加した

ことを無（比）の光榮と心得て、

うち方でもそのつもりで其の計図（画）をお願いします。

昨年（元）の稲の本数が来て収穫も略想像出来ました。

昨年は急（元）しかつたので思ふ存分農作に専念することの

出来なかつたのを残念に思ひます。

本年のことについては肥料代も違つて居ると思ふから何んとも申されませんが、土壤は決して悪化してゐなかつたと思ひま

す。存分にお願ひします。只苗代は相当警戒しなければ

なるまいと思ひます。

最後に写真二枚を入れます。一は私の執務姿、昨年十一月

頃ので日々患者が殺到するので緊張の一場面（戦友、  
一は内地還送患者の見送り、当院入口です。（看護婦）  
何れも素人写真です。  
もし付いたら御返事願ひます。

24【書簡―軍事郵便―】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

中支派遣畑部隊気付

深谷部隊本部

高橋忠光

【本文】

其の後母上様には如何お暮し居られますか。

今年はとても寒いと聞いてお風（風邪）を引かぬ様と案

じ居ります。

一月末には友次郎がこゝに来て上陸したさうです

が時間が無くて私のところまで来られないといって

手紙が届きました。せめて其の日の中ならどんなことをして

もあへたのに、ほんとうに残念でした。

大町の源右エ門さんがこちらの方に来てゐるさうで

其の隊からは負傷者がたくさん来たから、尋ねて見

たら分（分った）つかもありませんが、おそい為聞くことが出来

ませんでした。何でも其の隊はあちらこちらと非常

に難儀したそうです。今度の上海戦では始めの

中は味方がとても苦戦して、一日僅かに三十メートルや

五十メートルしか進めず小さい部落をやつと取った

時には、二百人近い味方が十人も居なかったと言ふ

話が沢山あります。ご飯がとても運べないので炊に握

飯を入れてずるずる引いてやつと手渡す頃には、みんな

くさつてゐた。それを食べて死人の沢山浮んでゐるク

リークの水を飲んで恐ろしいコレラで死んだ人

もありません。コレラはかゝると五六時間から二日位

の中に大抵死んでしまひます。夜歩哨に立った人

が翌朝行つて見ると、黒くなって死んで居た話もあります。

でも気を付けると決してかゝりません。今は冬ですから（冬はコレラは

ありません）御心配入りません。冬といつてもこちらは雪もないしあた

、かいからほんとうに暮しよい。私達は一番楽なところ

に居ます。私達は看護は本分ですけれど、看護婦

さんが沢山来てゐるので事務だけです。私は字が下手

だしどんなにきまり悪い思ひしたか知れません。

子供達にも勉強すると国の為になんかことをして

も働けることを聞かして下さい。

紀元節の日、部隊長殿が日赤の看護婦が引揚

ても（看護婦半分許り帰りました）凱旋近いなど考へる

など申されました。実際一万七八千人の戦死人

に対して済まないし、ほんとうのいくさはこれからと

思ひます。私達も患者にはほんとうに手をかけるのはこれ

からと思つてはり切つて居ります。

うちのことは御両親ともしっかりと居るので、私ほど

恵まれた者はないと思ひます。

皆様もあまりあせらず御身体大切に暮して下さい。

忠光

母上様

25 【書簡―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海河辺部隊深谷隊本部

高橋忠光

【本文】

先日予想して申し上げて置いたことは、事実として現れいよ／＼正式に他隊の凱旋を尻目に第二期聖戦に優秀有能の部隊として居残ることに確定しました。

出動部隊としてこれ程の名誉が又とありませうか。

此の面目にかけても必ず立派な働きをして御国に

報ひたいと思ひ居ります。現在はあまり患者も無い

けれど、今後戦局の多端(難)ならんとする時必ず我々の使

命重大さを加へるものと思ひます。こちらの気候は丁

度田植頃の気候で毎日晴天です。

部隊長殿は変って伊佐部隊が深谷部隊となり柏隊

が閉鎖となり六ヶ月間居馴れた商業学校を出て本

部に（聖心医院）に來ました。

柏隊附三十名の兵はそれぞれ配属せられ私は本部庶

室附となりました。私としては事務的仕事よりも

看護の実際の方が希望でもあり得意でもありますけれど、

終始事務的方面に許り廻るので困ります。いま、での様に

のんびりした気分で勤務出来まいと思はれます。でも自分としては出来得る限り努力します。

上等兵進級もあるとは聞いては居るけれど私などはてんで問題ではありません。まだ星を数へて勤務する気はありません。

自己の職務を忠実に命限り尽す気で居ります。

友次郎からまた上陸の便りあつてあへない、つくづく

残念に思ひます。其の中には会えるかも知れません。

後の三蔵殿は其の後どうですか。東のお母さんは？

尚今度は又召集があるかも知れません。しつかり頼みます。

何か記念物を贈りたいけれど絶対出来ない様子です。

患者のことについてもお話したいことは山々ありますけれど書けません。暇が無いので、後で暇を見て書きます。

皆様元気でお体を大切に願います。

高橋忠光

高橋峯次郎様

大日本

26 【書簡―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

高橋忠光

上海河辺部隊深谷隊本部

【封筒裏】

高橋忠光

【本文】

皆様お変わりありませんか。

希有の大雪も消えてそろ／＼苗代にかゝり、お忙はしく

なつたと思ひます。種塩水選、消毒等さぞ御手数であつ

たと思ひます。本年は肥料は高いと新聞にあります、節約

すべきは節約しても使うべきは充分使はなければならぬと思

ひます。燐酸の如きは例年多量に使つて居りましたから氣

候さへ良さそうなら一年位は減じて(反当六メ位迄)差つかへない

と存じます。石灰窒素は堆肥さへ充分なれば毎年使つても

よいそうです。昨年は春多忙であり、それに肥料設計指導田に

よつて分配に狂ひが出来て思ふ様な作柄では無かつたと存じて居

りますが、結果はどうであつたでせうか。私の戦友の人達は

手紙を出して田を貸してしまつたと言つて居ります。何しろ軍

需工業其の他で人手が少いから、手不足のところは困るだろうと

云つて居ります。私は、今一所(續)に居る沼畑さんは三戸郡の平良

崎村の人で園芸家で相当の人です。農業経営論は実

に傾聴すべきものがあります。実に畑地で我々は収支に苦しむ話し

をしたら、帰つたら実地指導する。どんなところでも経営方法に依

て収益を上げ得ると話して居ります。其の人も田を全部貸して

しまつたといつてゐます。こうして一同長期戦を覚悟で準備

してゐます。最近患者は一千二百しか居りませんが花柳病が

急に多くなりました。花柳病は今後内地に還送しないそうです

す。原因を見ると召集地或ひは出港地に於て自暴に遊んだのが多い

やうです。此の点応召者に御注意願ひます。

当地は春酣となり五月頃の氣候ですが、御国の春の如く眺

むる花がありません。僅かにあちらこちらにある庭園の日本桜

を見て楽しんで居ります。

四月三日当隊の慰安会があり、職員看護婦患者等総で盛大

でありました。たゞ雨にたゞられて困りましたけれど  
尚横須賀(友次郎)より返事があつて、うちへ電報を打つた。手紙を出

してもまだ返事がこないとありました。うちでも都合もあつたでせうけ

れど八ヶ月海の上に弾を浴び、爆撃の下をくゞつて帰つたのですから、

万難を排してかけつけてやつて下さい。現在の状況よりすると休暇で

帰ることも思ひもよらないこととせうし、再び出港したら

つあへるか分るまいと思ひます。

私もこちらで何とかしてあひたいと思つても、あひ兼ねました。

高橋三太郎氏戦死のことは、實際お気の毒でした。然しどんなことがあ

つても決して家庭に於て取乱すことのない様出動兵の何れもが望

むところです。私只今上番衛兵の時間となりました。

四月六日

27【書簡一軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海河辺部隊

深谷隊本部

高橋忠光

【本文】

小包受取りました。有難うございました。

実は日誌(病床)の復写に余り難解の略字があり困つ

て居りましたので願ひしてすみません。今度は

急いで書いた名簿(患者)の書きかへで五万以上に及ぶので、現

在三四人でやつて居るのではどんなに精出して三四ヶ

月はかゝると思ひます。これも略字当字等あるので

困つて居ります。もと藤根で先生をした紺野一

夫さんも私達の仲間です。本部には私のやうに歛取つて働いて居る者は一人も無いので、頭が上がりません。まあ一生懸命やるだけのことです。分院時代より幾分堅苦しいけれど時間で（大抵八時より九時頃迄）働くので骨は楽です。

友次郎君より母上とふさ子が来たこと知らして来ました。同封の写真を見ると母様も元氣らしいし、ふさ子は見違へる程ふくれて居ます。少しかたくなって顔をしかめたのは可笑しいけれど。

二日おかれて家の人達からも手紙が届きました。皆様丈夫で働いて居るのは何よりです。馬がうまれるのは今度買った馬からですか。何れにしろ初子のこと故御心配と思ひますけれど、たみの父さんが居る故よくやって呉れると思ひます。（此の手紙が届く頃はうまれてると思ふ）

こちらでは馬が何しろ弾の目標になり易く、クリークに落ちたりすると其の蓋になりやすく、気候も変つて居るので三分の一以上斃れたらしい話であります。馬の生産は経済を度外して大切のことだと思ひます。

藤根婦人会後藤支部からの慰問品も同日に届きました。皆様からこんなにしていたゞいて有難いと思つて居ります。

友次郎君等弾の下を潜つて華々しい手柄をたてて帰つたといふのに、私達はこゝで安々として勤務して居るのはすまないと思ひます。実際第一線の人々の労苦危険を聞き亦勇ましい手柄話を聞くと、じつと此の処に居られない気がします。でも私達は只使命を完全に果す、それだけが国への御奉公と思ひます。

二月の末ころ何時でも引きつぎし得る準備といふので、乗船帰

国の話もつばらでありましたが、私は信ずる処あつて皆様にも決意していたゞきたく夏物おくれの手紙を出しました。

冬物を内地へ贈る人もあるけれど私は持つて居る覚悟です。もうこうなつたら悲鳴を上げた方がまけですから、根くらべ意地くらべです。

私は、うちの人達が今日あるを期して覚悟して居られた故家計のことも家族のことも何一つ心配することなくお国の為働けることは、何よりの幸福と思ひます。戦友の話を知るとそれぞれ苦しまねばならぬ理由あるのに、私は全く恵まれて居ります。

三太郎さんの戦死は御国の為尊い生命を捧げられて護

国の神と成られたと共に村にどれだけの教訓と反省を与へられたかと思ふと只々此処から拜んで居ります。

私欲に固まつた人、此の重大時局をかへり見づ国家民族意識にうとい人々も必ずや反省しなくてはならない。もしこれでも目覚めずに徒らに権力争そひや私利を漁る人があるとすれば、国賊といふの外無いと思ひます。事変の前途は益々深刻になつて行きます。今後第二第三の三太郎氏が否従軍者のすべてが其の覚悟で居ります。

つまらぬことを長々と書きました。折があつたら此処で見て日本人の三省しなくはならぬことをおき、（手紙で）願ひたいと思ひます。亦昨秋空爆下で見た神か人かの患者との対話（私と）を真友紙上で願ひ出来るなら書いて送ります。真友といへば本年になつてから一部も来ないがご送り願ひます。

後の父さんのことはお困りと思ひます。御面倒見てやつて下さい。余程悪いのですか。生活の方もお困りと思ひます。喜右工門は来て居ますか。八師団現〇出〇とか様子は、召集はありませんか。御多忙と思ひます。御身大切にうちの人たちにもよろしく。

お父上様へ

忠光

28【書簡―軍事郵便―】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次 郎様

【封筒裏】

上海河辺部隊深谷隊本部

高橋忠光

【本文】

田植も近づいてお忙しいこと、思ひます。

横須賀より北海道にて千代蔵死亡により後始末に行つた

さうだとありました。ほんたうでせうか。

後の人達は其の後どうですか。医療費生活等ずい分苦労

して居ること、思ひます。

雨で春の仕事が困ると庄次郎さんから端書(葉書)が来ましたが、骨が折

れるでせう。

此の手紙書いている処に端書(葉書)が届きました。新聞と千代蔵死

亡は確実であり、しかも落盤による不慮の死はほんたうに可愛さ

うなことをしたと思ひます。此れが我々の如く戦地にあつてならと

惜しまれてなりません。

要吉さんの家の火災はほんたうに驚きました。昔のこともあり、う

ちでもどんなに驚いたでせう。しかも其の要吉さんから私

のところへ、私も丈夫になり皆様のお陰で屋根替しました。

私の娘も千代子と仲よく学校に行つて居るとの手紙が今着

きました。何とも云へない感じがします。馬の生まれたこと  
も近所の様子もしらして呉れました。

馬がおそく生れたので田打が難儀したと思ひます。田掻も困るでせう。

田植も間近のこと故皆様元気で働いて下さい。喜右工門、千蔵等来

て働いて居て呉れるので安心して居ります。

私も相□□□□□□□□□□□□□□□□(徐)して居ります。除州戦

は割合に患者少いのと我々の様な仕事する○○○○が昨年より

ずっと多いので案内外にやれる様子です。昨年十一月の半分(五〇〇

〇)は収容出来る様準備して置きましたがそれほどはならぬ(ない)。喜ぶ

べきことあります。

日報社の小原記者が上海に四日も居乍ら我々のところへ来なかつた。尋

ねても分からなかつと云ふたさうだが、我々の部隊は上海のどこでも知

らぬところは無い筈です。長崎看護婦が帰国するので船に送つ

て行つた人達は会つて写真を撮つたさうです。日報に出ると

思ひます。同盟通信か朝日かのニュース映画に御下賜纏滞

のことがあります。あれは我隊で庶務主任の野中少佐始め映つて

ありました。

友次郎も内勤となつたら速かに嫁を極めた方がよいと思ひます。

そして土に生きることが人間生活で一番強いことだと思ひます。戦

地に来てしみじみ感じます。此の点を認識せしめて考慮し

た方がよいのではないかと思ひます。万一私がこちらに居ることを考慮

することなどはありません。

余は後から申し上げます。

29【書簡―軍事郵便―】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋峯次郎様

【封筒裏】

上海河辺部隊

深谷隊本部

高橋忠光

【本文】

度々手紙差上げた筈ですが不着かも知れません。

喜右工門さんにも近所の人達には大抵書いた筈です。村の

人達にも大抵書いたが返事ある人もあり無い人もあります。

となりのえらい人にも書いたこともあるけれど、返事が来ないと次に

書く気になれません。自分にだけ来ないと云ふ人があつたら

不着になることあると話して下さい。

此の前に書いた手紙は、あまりくわしく書いた故と、かないかも知れ

ません。馬の生れたこと、要吉宅の火災、友次郎の帰宅、千

代三(蔵)の死亡皆存じて居ります。三蔵殿にも見舞状出しました。

此の手紙着する頃は田植も終ると思ひます。

御多忙で亦手不足で懐んで居ると思ひます。銃後

のことは想像して居ります。自分も後方勤務がいや

な感じがします。第一線の命を捧げての人間の真剣

に働く処に出て見たいと思ひます。

然し、また人間社会と云ふものに対する認識を深め正

義は孤立であり、孤立の正義は神仏の加護あり、遂には大衆の支

持を得るといふ信念の下に身を処する考へであります。

あせらずにお返し下さい、最後迄。

徐州附近の患者来て居ります。毎日でも大事を

とって(昨年のもあり)大準備したが案外少ない。現在(一七〇

〇)、然し戦線が広い為収容は速かに出来ない。もし戦線を忘れ

る様な人があつたら、此の見るもいたはしい忠勇の士をこ  
の見るに堪えぬ患者を見せたいと思ひます(内地に帰つ  
た患者を見せても感じが少ない)。

暑さは六月になつてから九十度を毎日昇ります。

でも田舎勤務故何んともありません。亦外は風があり

ます故割合しのぎよい。一日一時間外に出て子供時代の

様に遊びます。あせを流して運動するから元氣

で黒くなつて居ります。夏物は大抵間に合ふかと思

ふけれどお送り下さるなら、私の着て居た半袖のシャツ

あの型にお願いします。

湯口の藤井藤左工門氏は軍医部から除州の近く迄行

つて来ました。私と同様十四年兵の伍長です。柏隊以来

永く一(籍)所に居りましたが、今は軍医部派遣です。(栃内の三右

工門氏の嫁の兄)支那の内でも此処は海岸に近いし、河

が多いから暑さは烈しく無い。大陸の中央部は実にひどい

さうです。第一線のことを考へてすまないと思つて居り

ます。

同封の写真は事変の発端となつた大山大尉殉職の地、此

の標柱よりこちら二三間道路の中で教(殺されカ)され、四五十間向ふ

うの畑の中にかくしてあつた。我々の居る所より二里も

離れた郊外で途中は主に英人の住居が美しい並木の中に建

つて居ります。

一枚は仏租界で武装せる軍人は入れませんが、我々は患者輸送

の名目で二回はかり通りました。何れも長根君(私と同年兵

二子生れ)がとつたものです。

30【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

上海深谷部隊

本部

高橋忠光

【本文】

(なし)

31【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

中支派遣軍深谷部隊本部

高橋忠光

昭和拾三年十月三十一日

【本文】

廣明漢口に陥落益々志気を鼓舞して、事変の目的達成に努力

内地帰還の如きは誰一人願って居りません。

前便と行き違ひになったと思ひ

ますが、橋本の伯母様にはお礼状

は差し上げましたが不着の場合

は、追って差し上げるつもり故お知らせ

は、追って差し上げるつもり故お知らせ

せお願ひ申し上げます。

加藤清逸君の負傷経過はどうで

せうか。後送とありますが何処迄ですか。

漢口戦といへばこちらに来るかも知れ

ませんが、尚当地には我々が居ること

を漢口方面の人々にお知らせ下さい。

一面識無い人でも郷土人と聞くと

患者は涙を流さん許りに喜びびま

す。私は現在病室に軍係が無いので

知らずに居ることもあります。

下杉開田は追肥の為減収の由、天候不

良故し方無いと思ひます。新田とは

いえ本田の如くなり、地力衰へ肥料へ

の抵抗力衰へたこともお忘れ無く。亦

本年の収穫は明年の設計である

と思ひます。

昨日東磐井出身の処へ来た新

米で昭和拾三年の岩手米を味はひま

した。何しろ街へ出ても軍糧米も南

京米か台湾米の様なもの許りで患者

に気の毒であります。而し栄養食患

者食は申し分けありませんし、当隊の手当

は充分と思ひます。

尚私は其の後益々健康となりまし

た故御心配無く。皆様も寒さも

追ひ追ひ近づいて参りました故御

身大切にお暮しある様お願ひ上げます。

32【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

中支派遣畑部隊気付深谷部隊

本部

高橋忠光

【本文】

永らく御無沙汰致しました。実は御申訳ない話

であります。つい下痢にかゝりこれくらいと我慢したのが祟って卒倒して残念乍ら入院せしめられました。医者も祟とも言

ふべき将校宿舎に倒れたので、早速手当を受けたので殊に部隊長

殿柏大尉等多数軍医方の心尽しにより、十日許りにて全快再

び元気に勤務して居ります。御心配無き様願ひします。

それから今迄お知らせしないで居りましたが、二カ月位前より部隊

長当番を兼務して居ります。部隊長殿は寛大な方であり勤

務は非常に楽であります。私としては不本意であります。是非と

の命により勤務致して居ります。父上様より御多忙でもありま

せうが、部隊長殿に御手紙をお願ひ出来得れば幸甚の到りです。

寒山寺の書を後でお送りしてもよい。何しろ今迄戦友等が送つてもと

かなかつたり、送ることを止められたりして居ますが、私のは幸届いた

と聞いて安心しました。こちらで八十銭位で買へますが内地では中々手

に入らないと思ひます。其の他支那の書などは送れません。掛軸なども

あるけれど送られないさうです。それよりも惜しかったのは、前伊佐部

隊長は中々書画の点では素人離れた方でありました。が私勤

務多忙でつい書いてもらへませんでした。現在庶務主任殿も仲々の書家

です。其の中にお願ひして見ようと思つて居りますし、部隊長殿は

偉い人方が度々来るので記念帖をこしらへて書いてもらつてやるとい

はれて居ります。其の他弾丸とか鉄かぶとなど敵のものは、個人とし

ては送ることも持つて帰るなどは出来ないさうですが、芸術参考品など

の名目の下に小学校へ寄付などの理由を付して部隊として持つて帰る

ことが出来ると隊長殿に聞きました。

扱、気候は涼しく昨年にくらべものになりません。患者

は昨年末位になると思ひます。職員は日赤が減つて半分位しか

居りません。でも大奮闘して今迄の名をけがさない様にすると勇

んで居ります。

喜右工門の眼病は何ですか。後の三蔵殿もよくないとのことお困でせう。

稲はよく、土地をお買ひになつたりしてお働きのこと私等心強く

御奉公出来ます。飛行場も一躍全国の視聴を集めて国防

の第一線に出た訳ですね。只飛行場と防空訓練とは重大関係

あることをお忘れ無き様にと村当局にも言ふてやつたことあります

が、此れは父上様で無くては出来ぬ仕事と思ひます。昨年我々はあ

まりにも知り過ぎる程の経験をさせられました。

友次郎より家庭持つだけの自信が無いとありましたが、私は父上

を信賴しては(はつきり)つきした態度をとらなかつた為、友次郎を苦境

に立たしたことを済まないと思つて居ります。十年御世話になつて

何彼と差し出がましい口をきいて出過ぎたことを申しても、一坪の

土を拓くにも一本の木を育てるにも、只家との觀念でしかありませんで

した。そしてやがて友次郎が功成り、名遂げて家に帰るまで代つ

て父母の手足となつて働らかう。そして帰つたら其のお世話によつて

生活の安定を得さしてもらはう。それが最大の希望であり信念

であります。だから嫁は家業をつく嫁、生活は一家を背負ふ

生活であることを友次郎にはつきり認識してもらひたいと思ひます。

私は、此の事を幾度かはつきり申し上げ様と思ひ乍らも当然過ぎる

ことでもあり、皆様も当然さう決めて居るものであり、今更らの如く私

の口から言ふのはむしろ誤解を受ける様なこともあると思つて申

上げませんでした。此の信念は今後といへども絶対に

変わりありません。すべては父上様を信頼して

尚多数応召者もあるらしい。出来得るなら、氏名お知らせ下さい。

時候変わり目お身御大切に願ひます。

忠光

父上様

### 33 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

中支派遣畑部隊気付

深谷部隊本部

高橋忠光

【本文】

□□の砌、皆様お変わりありませんか。私事

□□後別条無く勤務致し居ります故御安

心願ひます。先月参拾日三泊四日の予定

□□つて南京蘇州等戦跡見学に赴き無事

□□隊致しました。当方面には未だ晩秋の候に

□□農民は耕作に余念無く、所謂南京米の

□□地のこと故一望端<sup>(果)</sup>て無き水田はすっかり

刈りとられて麦青々として居りました。照り

続く為水牛により田に揚水して居るあり。ク

リークの泥を運んで田の肥料となり等耕

地は戦争で嵐程も跡無く復旧して、土に生き

る者の力強さを示して居りましたが、鉄道は要

所々にトーチカ陣地を以つて、我軍は守備

して居りました。後程写真をお送り致します。

□月一日付を以つて、我々補助□生兵出身者より第

□次上等兵進級ありました。三分の一にも満たない

進級であります。どうやらお仲間に入れていた

できました。十二月八日大場鎮表忠塔除幕

□□り我々も参列致しました。「我々は兵站部隊

□はあるが上海戦に初期より参加して文字通

り弾道の下にありて働きし故、実に感慨無量

でありました。大場鎮迄の対戦苦闘に生き残

りし勇士も南京徐州漢口と転戦して残

るは今幾人ぞ。二万の霊を祭る此の表忠塔除幕式

に上海戦線参加者の勇士至つて少きものと思へば、唯々涙ある

のみでありました。」二三写真<sup>(送り)</sup>を写して参りまし

たからこれもあとで後<sup>(送り)</sup>ります。

尚逐次交代の話もありますが、私は乗船迄あてにして

おりません。若し第一次交代に入れば本月中旬

かと思はれますが、此の手紙到着後も帰還

しなかつたなら残つたものと思ひ願ひます。

なにしろ我战友は、未だ追撃に敗残兵討伐に必死と

なつて居る現在まだく働いて頂きたいと思ひますが。

写真機を買ひました。友次郎君への土産と思

ひまして七拾円許りで、あとは金が無く何も土産

にする物はありません。何も持つて帰ることは許るされ

ない。患者は日々減少しつゝ、あります。

(二三度手紙書いても情勢変化の為発送中止

しました)

では後からくはしくお知らせ致します。

忠光

父母様

34【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

中支派遣軍畑部隊

深谷部隊本部

高橋忠光

【本文】

(なし)

35【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

弘前陸軍病院兵舎

高橋忠光

【本文】

途中電報を以つてお報らせした筈ですが二十六日午後

拾一時予定通り無事到着致しました。

元氣でありますから御安心願ひます。

年次の関係上当分当地にて勤務することになりました

た。詳細は江釣子の高橋長吉さんにお願ひして

ありますからお伝へすること、存じます。

所持品も少ないけれど送つてしまいましたが当分不可能

と存じます。

うちに帰ることもあるとは思ひますけれども、此の際常

に前進の気分を以つて勤務致しましたから御安心願

ひます。

皆々様に御挨拶も年賀状も此の際差控へます

から宜敷しく願ひ致します。

36【書簡表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

弘前陸軍病院兵舎

忠光

【本文】

御手紙拝見致しました。

前々御通報らせ申し上げ可きの処、年次の関係上確立せる

は乗船三十時間許り前にて、私事は当番の関係上出発間

際迄の勤務の為お知らせしませんでした。委細は高橋長吉氏よりお聞きのこと、存じます。三十一日高長さん等

還りましてから内務班編入あり、私と江釣子の藤田君(一等兵)と青森県の福田君(一等兵)は四班編入を命ぜられました。二十四名の総員の中、上等兵は四名のこと故新兵さんたちがあまりやって呉れるので面喰らって居ります。まだ勤務も決定して居りませんが、今日

あたり決定すると思ひます。戦地の勤務と違って骨は折

れないが、細かいのには困りますが、若人に伍して負けない様努力する考へであります。友次郎君の方へはあらかじめ帰還のこと

とを知らしてありましたけれども、私の出した手紙が届かなかつたらしい。小包は返戻されると思ひますが、もし差

しつかえ無いものなら、私の友達湯口の藤井軍曹(栃内の三右工門さんの嫁の兄さん)にでも頼んで戦友達に分けてもらつてもよいと思

ひます。宛名は(深谷部隊でよい)茂作叔父さんの小包は何かしら無いが、送らないで下さい。こちらは欲しいものは何でも

買えますから。そしてよく御礼を言つて来たと御伝へ願ひます。こちらに還つたことを皆様にお知らせした方がよいで

せうか(あまり擾ぐなといはれます)。戦友の中には印刷して出した人もありますが、こちらは軍事郵便の無料も出来ないし、こ

のま、此所に居る間黙つて居た方がよいかどうかと思ひ居ります。亦挨拶状も誰々に出してよいか何分の御

配慮をお願いします。対馬部隊の帰還は、存じて居りましたが高仁、高武両氏

のことは存じませんでした。清徳さんにも会ひません。何しろ来た許りで院内のことも知りません。赤坂の一司さんには

会ひました。私一ヶ月位で帰るとは思ひますけれど、此の際再び大陸勤務も覚悟して油断無く勤務します。

こちらに来てから体にしんの入った様に元気になり、日々体重も増して居ります。御安心願ひます。

友次郎の嫁のことは、戦地勤務中も種々考へて居りましたが、数ある女性の中には真に驚嘆すべき精神力の人もありますが、中には高等教育を受け乍寒々すべき人もあります。写真を見て定めるのもどうかと思ひますけれど……。年齢から申しても、ハハ何れあとで私も話しては見ますが、出来る

なら少々無理でも早く決定すべきと思ひます。では亦後で申し上げることにしてこの辺で。

### 37【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次郎 様

#### 【封筒裏】

(白紙)

#### 【本文】

御手紙も電報も拝見致しました。

色々御心配を掛けて済みません。

軍服はこちらで買ふと十八円位で帽子付で相当のものが買えますが、此の際借りて帰

らうと思ひましたが、成可く私服を着て帰る様とのことでありますのでお願いし様

と思つて居りました処故、お陰様で助かります。

日はしかとは分からないけれど二月一日らしい。西も東も汽車時間に変り無いけれど、西

は雪で確實ではないから、東で行く考へであります。藤根着は後三時<sup>(午後)</sup>四十分頃と思ひますが、<sup>(改)</sup>更めて通知することになります。

役場には隊の方から電報で通知する手紙は出しました。

村出身者と同日なれば都合はよいと思ふけれど私が遅れると思ひます。

三十一聯隊を訪ねても、隊号がはっきりしないと

面会が出来ない。清徳さんには会ったけれど

うっかり中隊号を聞かないので電話も出来

ない。お知らせ願ひます。

写真機は憲兵隊でも相当探したらしい。

<sup>(詳)</sup>委しいことは面談にて

二十六日夜

38【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次 郎様

【封筒裏】

弘前陸軍病院兵舎、四

高橋忠光

【本文】

御送付の服本日到着有難く受取りました。

着て見ると大きさも丁度よろしい様で、あ

とはこちらの軍服店に頼んでこしらへていた

ッきます。北支より昨夜帰

還。二月一日の除隊は確實らしい。

明日でも三十一<sup>(三十一聯隊)</sup>を訪ねて見ますし、

同班の補充兵は二三中日に我々の居た方

へと〇〇の方へと行くので、今晚は壮行会を

やるところであります。

39【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次 郎様

【封筒裏】

弘前陸軍病院

高橋忠光

【本文】

二月一日解除と内聞せしところ、予定変更して明日三十一日となりました。

高橋徳孝さんに電話して見たところ取次

いて呉れません。清徳さんも分らない。

三十一日午後三時四十分藤根着の予定

であります(東北本線)。

役場の方へ通知するのは出迎へを受けること

を要求する様で悪いと思ひますので同封

しました。必要と思ひましたらお届け願

ひます。 unnecessary の場合はお捨て下さい。

尚出迎え等は最少限度に願ひます。

40 【書簡―平信】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

横須賀 加藤清雄氏方

高橋忠光

【本文】

予定の通り午後六時の汽車にて参りました。

心配の程の事も無く迷児とならず極めて順調に参りました。御安心願います。

田浦にて下車、雷を訪ねて面会。色々

語りましたが未だ考へが決まらないらしく、

周囲の事を非常に苦慮して居ります。

帰ったら委細のお話致しますけれど

ちゑさん決して帰ると言はない、何か仕事

を見付けると言ふさうです。

明日（十六日）請願して上陸する其の時、相

談することにして居ります。

清雄さんも種々心配してまとめる方が一番

だと申して居ります。

うちの方よりは相当暑い。来る時汽車で

弱った。

心配が多いので見物もし度くありません。

明日十七日帰ることになるでせう。

では後から。

家内一同様

高橋忠光

41 【はがき】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯 次 郎 様

鉛温泉藤徳

二階一六号

高橋忠光

【はがき裏】

前略、大沢に立寄り市四郎の処

を見たら伺ひ長屋の

八畳に十人以上居りましたので、<sup>茂作カ</sup>茂叔父

さんが後程来るとすれば面倒と存じ、

こちらに着たらやはり割込ですが、八畳に

黒沢尻の人達二人の中に入れてました。

大沢よりは静かです。父上が来られるには一番

よいと思はれます。明日大沢まで出て、叔父

さんが大沢に居るとすれば、帰るかも知れませ

ん。では。

（北上市農林部、国立歴史民俗博物館共同研究員）

（二〇〇二年四月三〇日受理、二〇〇二年六月二八日審査終了）

高橋忠光の軍事郵便一覽表

No	消印	日付	発信地	発信時の所属	形式 ◎は軍事郵便	検閲欄	内 容
1	昭和八・八・五	昭和八・八・五	弘前	弘前歩兵第三聯隊第三中隊五班	封書	なし	今回の予備召集で看護卒として学術的にも技術的にも勉強しなかったが、志とちがい残念であった。 召集され、弘前に向かう汽車の中での様子。 無事検査に合格した。 一人前の御奉公が出来ると思うとうれしい。 外地の方に配属が決まったので、特技を發揮し自分を尽くしたい。 戦地へ向かう汽車の中の気持ち。 旅行して見て、一番感ずることは郷土の女の教育の余りに低いことである。
2	昭和一二・八・二〇	昭和一二・八・二二	八戸	伊佐部隊	封書	なし	
3	昭和一二・八・二二	昭和一二・八・二二	弘前陸軍病院	伊佐部隊	封書	なし	
4	昭和一二・八・二四	昭和一二・八・二六	弘前陸軍病院	伊佐部隊	封書	なし	
5	昭和一二・八・二六	昭和一二・八・二六	秋田県	伊佐部隊	はがき	なし	
6	昭和一二・八・二八	昭和一二・八・三二	弘前	伊佐部隊	封書	なし	
7	昭和一二・九・一	昭和一二・九・一	広島市	伊佐部隊	封書	なし	
8	昭和一二・九・一五	昭和一二・九・一五	上海第十号兵站病院	上海派遣軍	封書	なし	四日朝長江下流の草地に到着。今朝陸に第一歩を踏むことになった。 本日(一五日)無事目的地に上陸することができた。 またまた宛名が変わり、日本人商業学校の建物にいる。近況報告。 乗船してより三昼夜海を越えて目的地に近づき、一二日無事上陸。コレラが多く困る。 上陸後救護を始めて半月が過ぎた。日誌、処方、名簿、伝票等の整理事務に追われている。 使い慣らした母馬が奉公にでた知らせを聞く。九月一五日病院開設以降の近況報告。 母すゑ宛の手紙。一時はコレラ患者も相当あった。一〇月一四日の夜近くに爆弾が落ちた。
9	昭和一二・九・一五	昭和一二・九・一五	上海第十号兵站病院	上海派遣軍	封書	なし	
10	昭和一二・九・一五	昭和一二・九・一五	上海日本商業学校内	伊佐部隊	封書◎	石田	
11	なし	昭和一二・九・〇〇	上海	上海派遣軍伊佐部隊	封書◎	石田	
12	なし	昭和一二・九・二八	上海	松井本部隊伊佐部隊	封書◎	石田	
13	なし	昭和一二・一〇か	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	
14	なし	昭和一二・一〇か	上海	(本文なし)	封書◎	石田	
15	なし	昭和一二・一一・五	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	
16	なし	昭和一二・一一・一九	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	はがき◎	石田	
17	なし	昭和一二・一一・一	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	
18	なし	昭和一二・一一・三一	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	近況報告。要人護衛のため上海から蘇州まで行った。ふさ子、チヨコへ新年おめでとう。 チヨッキが届いたこと。戦は国のためであるが人民一人一人に勝敗が響いて来る。 前線において、生命を投げ出して戦う勇士の銃後を少しなりとも慰めて上げたいと思う。
19	なし	昭和一二・一一・一四	上海	上海派遣軍伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	
20	なし	昭和一二・一一・一か	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	伊佐大佐から深谷中佐に代わった。二、三日後に柏隊を閉鎖し、本部に集まる予定。
21	なし	昭和一二・一二・二三	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	先日金少々送ったが届いたか。徐州会戦も近い。患者が減り、日赤班も引き揚げ始めた。
22	なし	昭和一二・一二・二か	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	先日送付した金が届いたか。上海に半年勤務になる。中国の敗戦を見たと思うと哀れです。
23	なし	昭和一二・一二・二か	上海	松井本部隊伊佐部隊柏隊	封書◎	石田	近況報告。今度の上海戦で味方が苦戦した。コレラにかかって死ぬひとが多い。
24	なし	昭和一二・一三・三か	中文	畑部隊気付深谷部隊本部	封書◎	齊藤	

41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
昭和 一五・二・二三	昭和 一四・七・一五	昭和 一四・一・三〇	昭和 一四・二・二九	昭和 一四・一・二七	昭和 一四・一・一一	昭和 一三・二・二六	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
昭和 一五・二・二三	昭和 一四・七・一五	昭和 一四・一・三〇	昭和 一四・一・二九	昭和 一四・一・二六	昭和 一四・一・一一	昭和 一三・二・二六	不明	昭和 一三・二・二八か	昭和 一三・一・一か	昭和 一三・一・〇・三一	昭和 一三・一・〇・三一	昭和 一三・六・六か	昭和 一三・五・五か	昭和 一三・四・六	昭和 一三・四・六	昭和 一三・三・三か
鉛温泉	横須賀	弘前陸軍病院兵舎	弘前陸軍病院兵舎四	弘前陸軍病院兵舎	弘前陸軍病院兵舎	弘前陸軍病院兵舎	中支	中支	中支	中支	上海	上海 (聖心医院)	上海 (聖心医院)	上海 (聖心医院)	上海 (聖心医院)	上海 (聖心医院)
							畑部隊 気付深谷 部隊本部	畑部隊 気付深谷 部隊本部	畑部隊 気付深谷 部隊本部	畑部隊 気付深谷 部隊本部	深谷部隊 本部	河辺部隊 深谷部隊 本部	河辺部隊 深谷部隊 本部	河辺部隊 深谷部隊 本部	河辺部隊 深谷部隊 本部	河辺部隊 深谷部隊 本部
はがき	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	石田	不明	石田	石田	石田	石田	石田	石田	石田	不明
鉛温泉での様子。	「雷」に乗船している友次郎に面会。	一月三十一日除隊となった。	送付された服到着、北支より昨夜帰還、二月一日の除隊は確実らしい。	除隊は二月一日らしい。	弘前病院内の近況報告。こちらでは軍事郵便の無料も出来ない。宛名は深谷部隊でよい。	二六日午後一時無事内地に到着、当分ここで勤務する。	先月三〇日三泊四日で南京蘇州戦跡見学をした。上等兵に進級。 (本文なし)。	下痢にかかり入院した。後藤野飛行場のこと。	加藤清逸の負傷経過はどうか。一三年の岩手米を味わった。	石田	石田	石田	石田	石田	石田	第二期聖戦として居残ることになった。六カ月居残れた商業学校を出て本部(聖心医院)に来た。 患者一二〇〇〜一三〇〇人しかいない。花柳病が急に多くなった。 小包を受け取った。分院時代より幾分堅苦しい。夏物送れの手紙を出した。三太郎の戦死。 徐州戦は割合患者が少ない。戦地に来て土に生きることが人間生活で一番強いことだと感じる。 もし戦線を忘れるような人があったら、見るも痛ましい忠勇の士や見るに堪えぬ患者を見せたい。 (本文なし)。